

非行少年の自己意識に関する研究（その1）

矯正協会附属中央研究所 大川 力
 淵上 康幸
 東京矯正管区 門本 泉

キーワード：非行少年，自己意識，自尊感情，セルフ・エスティーム，社会的スキル

1 はじめに

茅場ら(1991)は非行少年の生活・価値観についての研究を行い、一般の中学・高校生、少年鑑別所入所者、少年院入院者について比較検討しているが、その結果自己意識に関する質問への回答傾向から、「自分の現在の生き方に対する不満、ないしは自己不適應感の源泉を探ってみると、他人への信頼感の減退、自信喪失傾向、疎外・被害感の増大、落ご感の存在が、男女を通じて非行群の少年たちに推認でき、かつ、これらの意識の多くが、非行の深まりとともに強まる傾向もうかがえる」としている。

また上芝(1994)は少年鑑別所の入所少年について30年前の入所少年との比較から、心情質問診では一様に自己不確実感が強くなったことや、鑑別結果通知書の中で「自信が持たなくて」という表現が多く用いられていることを挙げ、自信の乏しさを最近の非行少年の特徴として指摘している。

実際に非行少年の鑑別や処遇に携わっていると、非行少年たちの多くに、表面は強く見せながら内心は自信に乏しく、友人や先輩などの仲間に依存したり、薬物などに依存することによって、自信の乏しさからくる無力感から逃れようとする心理機制がみられる。そして、非行を重ねることによって一層無力感

を強め、自信喪失につながるという悪循環を生み、社会適応を難しくしているような例も少なくない。

そこで非行少年が自分をどのように見ているか、また、それが非行の深まりとどう関連しているかを明らかにすることは、非行少年に対する矯正方策を講ずるための、重要な基礎資料を提供するものと考えられる。

一方最近矯正施設において社会的スキル訓練(social skills training)が注目を集めるようになってきている。社会的スキル訓練(以下SSTと略記)は相川(1995)によれば「社会的スキルの欠如」あるいは「社会的スキルの誤った学習」を前提として行われる訓練であり、非行少年には効果が期待できるとしている。また、法務省矯正局(1997)による手引や、前田(1997)による論考もみられる。また、SSTを実施する場合、実施前後の種々の評価が不可欠なものとされている。

そこで本研究では非行少年の自己意識を種々の質問紙を利用して明らかにするとともに、社会的スキルとの関連について検討することとした。

2 問題

心理学において、自己意識についての研究の歴史は長く、また、多様な研究が見られるが、その中でも、自信、自負心、誇り、自尊

心といわれるものは、自分自身の価値づけを示すものであり、心理学では自尊感情 (self esteem) と呼ばれている。そうした自尊感情を測定する方法として、Rosenberg, M. (1965) による尺度があり、星野 (1970) や山本ら (1982) による翻訳もある。しかし、Rosenberg による自尊感情尺度については、いろいろ批判もあり、特に自尊感情は国民性やその国の文化による基準の違いも考えられるので、その測定については問題が多い。しかし、自尊感情が社会適応の上で重要なものであることは言うまでもないことであり、自尊感情が弱いことは、不適応や心理的な不健康さを反映しているとも考えられている。また、Rosenberg, M. (1965) は、自尊感情は、安定した保護者に恵まれなかったり、親から関心を払われなかったりすると、弱くなりがちであるとしている。また、自尊感情は個人の特性を示すと考えられる一方で、訓練することにより、向上させることができるといわれる (遠藤, 1992)。

以上のような自尊感情についての研究から、非行少年における自尊感情の特質と、それに関連する種々の自己に関する意識を、質問紙法により明らかにしていくことが本研究の主たる目的である。また、自尊感情と社会的スキルについては相互に関連が深いものと考えられていることから、社会的スキルとの関連についても検討する。

3 方法

(1) 対象者

全国の少年鑑別所 52 庁に、平成 9 年 9 月から 11 月までの 2 か月間に観護措置決定により入所した者のうち、鑑別判定を行った者を対象とした。その結果 1,808 名についての調査票が得られたが、未記入の部分が多い調査票を除外し、合計 1,795 名 (男子 1,580 名、女子 215 名) を分析の対象とした。

(2) 調査内容

調査票は次の 2 種類である。

ア 職員用調査票

次の 26 項目について、鑑別担当職員に記入を依頼した。26 を除く各項目は、少年鑑別所で用いられている鑑別統計カードとほぼ同様の下位項目を設定した。

調査項目 (下線の項目は重複回答が可能)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 年齢 | 2 性別 |
| 3 入所回数 | 4 知能偏差値 |
| 5 非行名 | 6 非行の動機 |
| 7 本件の計画性 | 8 本件共犯数 |
| 9 本件共犯役割 | 10 不良集団所属 |
| 11 在宅保護歴 | <u>12 保護施設・刑事処分歴</u> |
| 13 非行初発年齢 | <u>14 非行範囲</u> |
| 15 し癖 | 16 問題行動歴 |
| 17 文身 | 18 性経験 |
| 19 学歴 | 20 養育者 |
| 21 養育者の安定度 | 22 現在の保護者 |
| 23 兄弟姉妹の数 | 24 精神診断 |
| 25 鑑別判定 | |
| 26 法務省式人格目録 (MJPI) 結果 | |

イ 少年用調査票

全部で 68 問からなる質問紙を用いたが、質問は次の 4 種類で構成されている。

① 自尊感情尺度

Rosenberg, M. (1965) によるもので、「だいたいにおいて、私は自分に満足している」など自分の評価に関する内容の 10 問で構成され、回答は「その通り」「まあその通り」「少し違う」「違う」の 4 つの中から選ぶようになっている。この日本語訳は山本ら (1982) のものを主として用いたが、一部星野 (1970) によるものも参考とした。また、理解困難と思われる質問については一部表現を改めた。

② 社会的スキル尺度

菊池 (1988) によるもので、「人と話しているとき、話がとぎれるようなことはない」な

ど、人との付き合い方の中での自分の態度に関する質問 18 問から成っている。回答は「その通り」「まあその通り」「どちらともいえない」「少し違う」「違う」の 5 つから選ぶようになっている。なお、一部理解が難しいと思われる質問は内容を変えない程度に表現を改めた。

③ 自尊心維持方略に関する項目

自尊心を傷つけないようにするために自分が行っている方略に関するもので、次の 4 種類、36 の質問で構成した。回答は②と同様 5 つの選択肢から 1 つを選ぶようになっている。

(ア) 哀願的自己呈示

Jones, E. E. & Pittman, T. S. (1982) の理論に基づき、「都合が悪くなると、本当は病気でないのに、病気のふりをしたことがある」など、自分の弱みをさらけ出して相手の援助を求めることにより自尊心を維持しようとする方略についての 9 個の質問から成っている。

(イ) 威嚇的自己呈示

アと同様 Jones, E. E. & Pittman, T. S. (1982) の理論に基づき、「自分を馬鹿にする相手は、痛い目にあわせる」など、相手を威嚇したりすることにより、もし自分の意に添わない者が居ればストレスや苦痛を与えることも辞さないとする意図を示すことで自尊心を維持しようとする方略についての 9 個の質問から成っている。

(ウ) セルフ・ハンディキャッピング

Jones, E. E. & Berglas, S. (1978) の理論によるもので、「ここ一番の大切なときになると、体の調子が悪くなる」など、失敗してもその原因が自分にはないという逃げ道を用意しておき、自分が傷つかないようにすることで自尊心を維持しようとする方略についての 9 項目から成っている。これらの項目は Jones, E. E. et al. (1986) による尺度の沼崎・小口(1990)による日本語版 23 項目を参考として作成した。

(エ) 自己意識の低減

Duval, S. et al. (1972) の理論によるもので、「やけになって酒を飲んだり、大食いをしたことがある」など種々の手段で現実からの逃避を図り、自尊心を維持しようとする方略についての質問 9 項目から成っている。

④ 自己概念不安定性尺度

上瀬・堀野(1995)による、「自分のことが好きになったり嫌いになったりする」など自己概念の不安定性に関する 4 項目の質問から成るもので、回答は②と同様 5 つの選択肢から 1 つを選ぶようになっている。

なお、上の①から④の 58 項目の質問は、回答に及ぼす項目間の影響を考え、適宜分散して配列した。また、③の自尊心維持方略に関する項目と、④の自己概念不安定性尺度については次回の報告で触れる予定であるが、質問文は資料として論文末に掲載した。

4 結果

(1) 調査対象者の特性

対象者の性別・年齢群別の構成は表 1 の通りである。以後、年齢については、年少群 (15

表 1 対象者の性別・年齢別構成

年齢	男子 (%)	女子 (%)
14	78 (4.9)	25 (11.6)
15	150 (9.5)	44 (20.5)
16	292 (18.5)	48 (22.3)
17	406 (25.7)	45 (20.9)
18	355 (22.5)	31 (14.4)
19	299 (18.9)	22 (10.2)
計	1,580 (100.0)	215 (100.0)

(注) 1 男子 14 歳には 13 歳 3 名、男子 19 歳には 20 歳 1 名を含む。

2 %は、小数点第 2 位を四捨五入して表示してある。

歳以下)、中間群 (16・17 歳)、年長群 (18 歳以上) の 3 群に分けて分析する。

また、対象者の非行種別の年齢群別分布は表 2 のとおりである。この表から見ると、男子は比率の多い方から、粗暴犯・窃盗犯・交通犯となっており、交通犯を除き年齢による

表2 性別・年齢群別非行種別

非行 種別	男				女			
	合 計	年少群	中間群	年長群	合 計	年少群	中間群	年長群
乗物盗	104	19	61	21	-	-	-	-
他窃盗	320	50	135	135	25	8	11	6
粗暴犯	485	83	200	202	48	21	24	3
凶悪犯	110	21	56	33	9	3	5	1
性 犯	54	4	13	37	1	-	1	-
交通犯	263	9	142	112	-	-	-	-
覚せい剤	60	3	19	38	61	8	19	34
毒劇物	45	2	20	23	15	2	9	4
ぐ 犯	60	32	21	7	51	27	23	1
その他	77	4	30	43	5	-	1	4
不 明	2	-	2	-	-	-	-	-
合 計	1,580	227	699	654	215	69	93	53
%								
乗物盗	6.6	8.4	8.7	3.7	-	-	-	-
他窃盗	20.3	22.0	19.3	20.6	11.6	11.6	11.8	11.3
粗暴犯	30.7	36.6	28.6	30.9	22.3	30.4	25.8	5.7
凶悪犯	7.0	9.3	8.0	5.0	4.2	4.3	5.4	1.9
性 犯	3.4	1.8	1.9	5.7	0.5	-	1.1	-
交通犯	16.6	4.0	20.3	17.1	-	-	-	-
覚せい剤	3.8	1.3	2.7	5.8	28.4	11.6	20.4	64.2
毒劇物	2.8	0.9	2.9	3.5	7.0	2.9	9.7	7.5
ぐ 犯	3.8	14.1	3.0	1.1	23.7	39.1	24.7	1.9
その他	4.9	1.8	4.3	6.6	2.3	-	1.1	7.5
不 明	0.1	-	0.3	-	-	-	-	-

(注) 1 「他窃盗」は自動車・単車等乗物盗以外の窃盗である。

2 %は各群の合計に対するものであるが、小数点第2位を四捨五入してある。

差はあまりみられない。これに対して女子は覚せい剤取締法違反(以下覚せい剤と略記)・ぐ犯・粗暴犯の順で男子とは非行種別が大きく異なっている。また、年少群はぐ犯と粗暴犯が大半を占めているが、年長群は覚せい剤が半数以上であるなど年齢群により非行種別に差がある。したがって非行との関係を見る場合、女子の場合は特に非行種別と年齢を考慮した分析が必要である。

(2) 自尊感情尺度の統計的検討

始めに述べたように、本研究では自己意識を自尊感情を中心として検討することとした。そこでまず自尊感情尺度についての統計的検討を行う。

自尊感情尺度10項目について、年齢群別に回答の分布を見たが、1項目を除いて回答分

布に大きな偏りはなかった(付表1)。偏りの大きい1項目は、「8 もっと自分自身を尊敬できるようにになりたい」で、男女とも60%以上が「そのとおり」と答えており、「まあそのとおり」を加えると90%を超えており、採点の対象とすることには問題があるので、この項目を除外し残りの9項目の合計得点を自尊感情得点とすることにした。

次に自尊感情尺度の各項目の回答の「そのとおり」を4点、「まあそのとおり」を3点、「すこしちがう」を2点、「ちがう」を1点(付表1で番号に○をつけた項目は逆転項目であり、配点は逆となる)として項目別の得点を算出した。その平均値を性別に示したのが表3で、9項目中8項目で男女間に有意差が認められ、いずれも男子の方が女子よりも高か

表3 自尊感情尺度各項目の平均得点等

項目 番号	男 子		女 子		有意 水準
	平均	SD	平均	SD	
1	2.33	0.90	2.06	0.89	**
2	2.42	0.98	2.26	1.02	*
3	2.65	0.81	2.26	0.88	**
4	2.80	0.78	2.48	0.84	**
5	2.41	0.90	2.22	0.91	**
6	2.87	0.85	2.65	0.93	**
7	2.69	0.85	2.38	0.89	**
9	2.82	0.91	2.75	0.91	
10	2.64	0.92	2.20	1.00	**

(注) 1 項目内容は巻末資料を参照のこと。
 なお、項目No.8は、今回自尊感情尺度として採用しないので除外してある。
 2 無回答は除外したので、各項目で人員は異なる。
 3 SDは標準偏差（以下の表でも同様）
 4 有意水準はF検定によるもので、男子が女子に比し平均点が、*は5%水準、**は1%水準で有意に高いことを示す。

った。

次に各項目についての得点を算出したのと同様の配点で個人別に算出した自尊感情得点を性別・年齢層別に示したのが表4である。

表4 性別・年齢層別自尊感情尺度得点

性別	年齢層	人員	平均	SD
男	年少群	218	22.96	4.54
	中間群	684	23.51	4.76
	年長群	638	24.00	6.38
	計	1,540	23.62	4.93
女	年少群	65	21.14	5.59
	中間群	90	21.18	5.47
	年長群	53	21.71	6.10
	計	208	21.30	5.65

(注) 2 要因分散分析の結果、性別の主効果は $F(1, 1747)=30.7$ で1%水準で有意であるが、その他の主効果と交互作用は有意でなかった。すなわちどの年齢層においても男子の方が女子より得点が有意に高い。

項目別の得点と同様男子の方が女子より得点有意に高くなっている。また、年齢別では男女とも年齢の高い方が得点が高くなっているが、統計的に有意な差は認められなかった。したがって、今後の分析では原則として年齢群別の分析は行わないこととした。

(3) 自尊感情尺度と他の属性との関連

次に「2方法」で述べた職員用調査票の各項目のうち、自尊感情と関連が深いと思われる項目について、統計的な検討を加えた（統計数値に関する部分は付表2として論文末に一括して掲げ、ここでは結果だけを述べる）。

ア 養育環境等との関連

12歳ころまでの養育者が安定していたかどうかについて、安定・やや不安定・不安定の3群に分け、自尊感情得点の平均値を比較したところ、男子は有意差が認められ、多重比較の結果では、安定群は不安定群よりも自尊感情得点が高かった。

また、同胞数について、同胞なし・一人っ子・2人・3人・4人以上の4群に分け、自尊感情得点の平均値の差を比較したところ、男子では有意差が認められ、多重比較では4人以上の群が他の群より自尊感情得点が低かった。

出生順位について、一人っ子・長子・中間子・末子の4群に分けて比較したところ、男子は有意差が認められた。多重比較では一人っ子が最も自尊感情得点が高く、中間子は一入っ子や末子より自尊感情得点が低かった。

イ 非行歴等との関連

入所度数 再入・初入の2群に分け、自尊感情得点と比較したが、男女とも有意差は認められなかった。

鑑別判定 在宅保護判定・教護院養護施設判定・少年院（短期処遇）判定・少年院（長期処遇）判定・その他の判定の5群に分けて比較したところ、男女とも有意差が認められた。多重比較の結果では、男子は、在宅保護・少年院（短期処遇）・少年院（長期処遇）・教護院・養護施設の順に自尊感情得点が低くなり、女子では、少年院（長期処遇）が他の全ての判定に比べ自尊感情得点が低かった。

保護歴 警察補導・保護観察・施設収容の3群に分け、自尊感情得点の平均値を比較したところ、男子にのみ有意差が認められた。

多重比較を行ったところ、施設収容は自尊心得点が低かった。

ウ 非行種別との関連

乗物盗・他窃盗・粗暴犯・凶悪犯・性犯・交通犯・薬物犯・ぐ犯・その他に分け、自尊心得点の平均値を比較したところ、男子は有意な差が認められた。多重比較の結果、乗物盗、性犯とぐ犯が他の非行に比べ有意に自尊心得点が低かった。

エ 共犯関係との関連

本件が単独犯か共犯がいるか、共犯がいる場合その中で役割はどうかについて、単独犯・共犯(主導)・共犯(共同)・共犯(雷同)・共犯(従属)の5群に分け、自尊心得点の平均値を比較したところ、男子にのみ有意差が認められた。多重比較の結果、共犯(共同)、共犯(雷同)が自尊心得点が高く、単独犯が自尊心得点が低かった。

共犯数については、単独犯・3人以内・4人以上の3群に分けて比較したところ、男子にのみ有意差が認められ、単独犯の自尊心得点に有意に低かった。

オ MJPI との関連

表5はMJPIの各尺度の得点と自尊心得点との相関係数を示したものである。

MJPIの各尺度の中では、男子は虚構と自己顕示を除く全ての尺度で有意な相関があった。そのうち過活動と軽そう(躁)は正の相関、すなわち、過活動傾向と軽そう傾向の強い者は自尊心得点が高く、その他の尺度はいずれも負の相関で、MJPIでその傾向の強い者は自尊心得点の得点は低かった。また、抑うつ・自信欠如・偏狭の3尺度が特に強い負の相関がみられた。新追加尺度では信頼性と自己顕示を除く全ての尺度で有意な相関があり、そのうち発揚については正の相関であるが、その他は負の相関であった。

一方女子については、有意な正の相関があったのは軽そうだけで、有意な負の相関があったのは、自我防衛、自信欠如、抑うつ、従

表5 MJPI と自尊心得点との相関

MJPI 尺度名	男子	女子
信頼尺度		
虚構	-.010	.061
偏向	-.120 **	-.023
自我防衛	-.263 **	-.304 **
臨床尺度		
心気症	-.280 **	-.134
自信欠如	-.375 **	-.305 **
抑うつ	-.415 **	-.352 **
不安定	-.198 **	-.078
爆発	-.113 **	-.053
自己顕示	.044	.043
過活動	.072 **	.128
軽躁	.281 **	.196 **
従属	-.224 **	-.197 **
偏狭	-.331 **	-.235 **
新追加尺度		
信頼性	-.049	-.039
神経症傾向	-.296 **	-.161 *
意志欠如	-.250 **	-.200 **
爆発	-.134 **	-.106
自己顕示	.100	.122
発揚	.280 **	.164 *

(注) *は5%水準、**は1%水準で有意であることを示す。

属、偏狭で、そのうち、抑うつ、自信欠如、自我防衛の3尺度が強い負の相関があった。新追加尺度では神経症傾向と意志欠如に有意な負の、発揚に有意な正の相関が見られただけで、男子より有意な相関の得られた尺度は少なかった。

なお知能偏差値と自尊心得点については統計的に有意な関連はみられなかった。

(4) 社会的スキル尺度との関連

社会的スキル尺度は18項目の質問で構成されているが、質問ごとの回答分布は付表3として論文末に掲げた。全体としては、社会的スキルがあるとする回答の方が多く、「3私は人を助けていくことが上手だ」に対しては、「どちらともいえない」の回答が男女とも半数を超えている。しかし、全体に極端な回答の偏りはないので、「そのとおり」を5

点、「まあそのとおり」を4点、「どちらともいえない」を3点、「すこしちがう」を2点、「ちがう」を1点として、18項目の合計を算出し、社会的スキル得点とした(逆転項目については逆の配点である)。その性別・年齢別の平均得点等は表6のとおりであるが、性別・年齢群別とも得点に統計的に有意な差は認められなかった。なお、参考までに堀ら(1994)による大学生等の平均得点を掲げたが、非行群は高校生よりは高く、短大生・大学生に近い得点を示している。

表6 社会的スキル尺度得点

群 別	人員	平均	SD	
男子	年少群	221	57.43	8.96
	中間群	681	57.73	9.84
	年長群	639	58.41	9.86
	計	1,541	57.97	9.73
女子	年少群	66	56.17	8.77
	中間群	87	57.75	10.37
	年長群	52	56.02	10.09
	計	205	56.80	9.77
【参 考】				
教師(男性)	45	61.82	9.41	
大学生・男子	83	56.40	9.64	
〃・女子	121	58.35	9.02	
短大生・女子	112	56.81	7.01	
高校生・男子	106	53.98	7.45	
〃・女子	57	53.47	9.06	

(注) 参考として挙げた資料は、堀他編「心理尺度ファイル」垣内出版 1994 p. 244による。

こうして算出した社会的スキル得点と自尊感情得点との相関係数は、

$$\text{男子 } r = 0.463 \quad \text{女子 } r = 0.327$$

で、自尊感情が高い者は社会的スキル、すなわち人との関係を巧みに処理する能力が高いことを示している。

次に社会的スキル尺度の各質問ごとの回答により肯定群・否定群に分け、自尊感情得点の平均値を比較したのが表7である。

男子はすべての項目について1%水準で有意差が認められたのに対し、女子で1%水準で有意差が認められたのは、2, 3, 14, 18 の4

項目、有意水準を5%としても、6, 9, 12, 13 の4項目が追加されるだけであり、残りの10項目については有意差が認められなかった。有意差が認められたのは、すべて社会的スキルが高いことを意味する回答をした群の方が自尊感情得点が高かった。

5 考察

(1) 自尊感情について

自尊感情については、Rosenberg, M. の自尊感情尺度(Self-Esteem Scale)によったものであるが、前述のように原法の10項目から1項目を除いた。この項目は「8 もっと自分自身を尊敬できるようになりたい」であり、原文は「I wish I could have more respect for myself.」となっている。ここでは respect を「尊敬」と訳しているが、日本語では尊敬は「他人の人格・行為などをとうとびうやまうこと」(広辞苑第4版)の意味であり、本来他人に対して用いる言葉であることや、現在の自分の価値をどうみているかとは関係なく、より望ましい在り方、すなわち願望として回答したことも考えられる。また、このことは自分を卑下することが美德とされてきた日本人の心性とも関わるものであり、より適切な訳を工夫すべきであったと考える。

また、伊藤(1994)は最近の日本における自尊心概念や自尊心尺度についての研究について検討し、Rosenberg の尺度は日本人にとっての自尊心尺度の理解には十分といいがたいと結論している。しかし、これまでの研究成果との比較や、それに代わり得るものがないことから、今回はRosenbergによったが、そうした国民性の差を考慮した分析が必要であることは言うまでもない。

次に自尊感情得点の性差については、男子が女子に比して高いことが認められた。遠藤(1986)、田中(1992)の一般群を対象とした研究においても、男性が女性に比して高くなっ

表7 社会的スキル尺度の項目ごとにみた自尊感情尺度得点

社会的スキル尺度の回答 社会的スキル尺度質問内容 (丸囲いの番号は逆転項目)	性 別		女 子	
	男 子		肯定群	否定群
	肯定群	否定群	自尊感情尺度の平均得点	
	自尊感情尺度の平均得点		自尊感情尺度の平均得点	
	人 員 (標準偏差)		人 員 (標準偏差)	
1 人と話しているとき、話が途切れるようなことはあまりない。	24.82 ** 636(5.03)	22.22 376(4.89)	22.31 100(5.87)	20.73 33(6.02)
② 人にこうして欲しいと思うとき、それをうまく伝えることができない。	22.28 754(4.84)	26.05 ** 429(4.83)	20.62 95(5.45)	23.08 ** 59(5.87)
3 私は人を助けていくことが上手だ。	25.38 ** 360(5.32)	22.13 298(5.14)	23.08 ** 38(5.30)	19.56 48(6.18)
4 相手が怒っているときに、うまくなだめることができる。	24.43 ** 739(5.00)	22.24 285(5.45)	22.07 86(6.11)	20.90 41(5.86)
5 知らない人とでも、すぐに話を始められる。	24.49 ** 787(5.00)	22.44 401(4.81)	21.62 131(5.38)	20.25 40(6.50)
6 周りの人たちとの間で行き違いがあっても、うまく片づけられる。	25.23 ** 563(4.90)	21.34 264(4.87)	22.45 * 64(5.84)	20.04 46(6.37)
⑦ 怖いことや恐ろしいことがあると、どうしたらいいか分からなくなってしまう。	22.40 553(4.87)	24.86 ** 572(5.05)	20.61 109(5.05)	22.45 53(6.59)
8 気まずいことがあった相手とも、うまくやっつけていける。	24.17 ** 987(4.98)	22.01 224(4.84)	21.50 124(5.87)	21.96 26(5.19)
⑨ 仕事をする時に、何をどうやったらいいか自分だけではなかなか決められない。	22.42 627(4.83)	24.93 ** 584(5.04)	20.21 78(5.59)	22.31 * 67(6.23)
⑩ 人が話をしている中には、気楽に入っていけない。	22.40 502(4.95)	24.84 ** 548(5.10)	20.68 66(5.65)	22.57 145(5.78)
11 相手から文句を言われても、それをうまく切り抜けることができる。	24.50 ** 623(5.11)	22.47 362(5.16)	22.38 74(5.89)	20.24 55(6.39)
12 仕事がうまくいかないと、どこがまずかったかをすぐに見つけることができる。	24.47 ** 697(5.04)	21.90 350(5.04)	22.37 * 75(6.11)	20.24 55(5.58)
13 自分の感情や気持ちを、そのまま表面に出せる。	24.21 ** 739(5.11)	22.62 364(5.25)	22.13 * 112(5.67)	20.05 42(5.76)
⑭ ひとつの事について、相手によっていろいろ違った事を言われると、どうしていいか分からなくなってしまう。	22.49 666(4.98)	25.34 ** 356(5.19)	19.78 100(5.51)	24.35 ** 48(5.61)
15 初めて会った人に上手に自己紹介することができる。	25.03 ** 552(5.04)	22.17 548(4.72)	21.64 70(5.21)	20.75 77(5.54)
16 何か失敗したとき、すぐにその場で謝ることができる。	24.17 ** 1029(4.90)	22.41 221(4.90)	22.19 116(5.52)	20.73 48(5.80)
17 周りの人の考えと自分の考えが違っていても、うまく合わせていくことができる。	24.07 ** 771(5.08)	22.44 246(5.27)	21.85 100(5.37)	21.44 32(7.03)
18 自分だけで仕事の目標が立てられる。	24.79 ** 670(5.19)	22.00 395(4.68)	22.92 ** 86(5.92)	19.16 49(5.95)

(注) 1 肯定群は社会的スキル尺度の質問に、「そのとおり」、「まあそのとおり」と答えた者、否定群は「少し違う」「違う」と答えた者で、「どちらともいえない」及び無回答は除外した。

2 平均得点欄に*がついているのは、自尊感情尺度の平均得点がもう一方の群に比して、5%水準で有意に高いことを、**は1%水準で有意に高いことを示す。

ている。そして、こうした性差が生じる理由として、日本社会における男女の地位や性役割などの社会的条件や心理的防衛機制の相違などが指摘されている。また、自尊感情は生

育環境や保護者との情緒的關係による影響を大きく受け、養育環境に恵まれなかった者の自尊感情は強まりにくいとも言われている。本研究は少年鑑別所に入所した少年を対象と

したものであり、男子と女子ではかなり家庭の保護能力に違いがあると考えられることから、性差は社会的条件とともに養育環境の問題が大きいと思われる。したがって、この結果だけで男子の方が自尊感情が高いと結論することはできない。

(2) 自尊感情と他の属性

少年鑑別所入所者の自尊感情尺度の得点を、種々の属性と比較した結果、以下のことが明らかになった。

ア 養育環境等との関係

男子では12歳ころまでの養育者が不安定だった者は自尊感情が弱かった。また、同胞についてみると、多子家庭で育った者の自尊感情が弱く、また、出生順では一人っ子と末子の自尊感情が強く、中間子の自尊感情が弱かった。出生順位についての石井ら(1996)の研究では、一人っ子、末子の順で自尊感情が強いことを指摘しているが、本研究でも男子の場合同様であった。

これまでの研究では、親から多くの関心を持って育てられことが自尊感情を強め、親の関心が相対的に弱い場合、自尊感情が育たないとされているが、本研究においても安定した養育者を持たない者が自尊感情が弱くなった。そして、施設歴のある者の自尊感情が弱いことも、安定した保護者に恵まれない環境が健全な自尊感情の育たない要因となることを示している。

イ 非行との関連

鑑別判定において施設収容相当と判定された群は、在宅保護の判定をされた群よりも自尊感情が弱かった。特に、男子では教護院・養護施設送致判定、女子では長期処遇の少年院送致判定群は、自尊感情の弱さが目立った。鑑別判定は非行性の進み方と関連しているものの、家庭の保護能力とも関連しており、自尊感情が非行性の進み方と関係があるとは、この研究の結果だけでは結論できない。

非行の内容でみると、男子の場合乗物盗、

性非行とぐ犯が自尊感情が弱かった。また、共犯関係では、男子では、本件の共犯に関する役割において、積極的に関わった者の自尊感情は、単独で非行をした者よりも強かった。また、男子の場合、単独で非行をした者は、共犯者がいる者より自尊感情が弱かった。

ぐ犯の場合、年齢の低い者や家庭に問題があると、少年鑑別所に収容されることが多いと考えられるので、非行性よりは養育環境の影響が強いものと考えられる。また、共犯関係において、単独で非行をした方が自尊感情が弱いことは、非行の内容との関連を含めて検討する必要がある。

ウ その他

性格特性についてはM J P I (法務省式人格目録)との関連では、男女とも相関が高かったのは、抑うつ、自信欠如と偏狭で、その傾向の強い者は自尊感情が弱かった。抑うつや自信欠如といった特性は、自分の内面に目が向き過ぎ、実際以上に自分を低く見やすい傾向を示す特性であり、それが自尊感情と負の相関を持つことは当然考えられることであり、また、偏狭は社会的な共通認識について目を向けようとせず、自分本位の考え方にこだわりやすい傾向を示すことであるから、本研究のように主観的な自尊感情を測定している場合は高くなることが考えられる。

次に、社会的スキルとの関連では、自尊感情の強い者は、自分のことを社会的スキルが高いと認知する傾向が見られた。しかし、ここで扱っている社会的スキルは自己申告によるものであり、実際に社会的スキルが高い場合もあるが、自分だけの思い込みであることも考えられる。したがって、社会的スキルが高いことは自分をよく見せようという方向に回答した場合や、単なる自己満足、あるいは自分を客観的に捉えていないことから生じたとも考えられる。この点については、更に他の尺度との関連についても検討しないと結論できない。

6 おわりに

以上質問紙法により測定した自尊感情と各種の属性との関連について検討してきた。その結果これまでの研究にもみられるように、自尊感情は養育環境と関連していることや、共犯関係など非行の形態との関連もみられた。また、性格特性や社会的スキルとの関連もみられた。しかし、自尊感情は社会適応と直線的に関連しているとは考えられない。自尊感情が強すぎる場合、他人を見下すようになり、独善的な考え方や行動に走りやすいため、自分では社会的に適応していると思っ
ても実際は周囲に受け容れられない場合もある。一方自尊感情が弱すぎる場合は、必要な自己主張さえできず、ただ周囲の動きに追従するだけで、社会的に適応しているというよりは、ただ周りの動きに合わせているだけに過ぎない場合もある。そういう意味では自尊感情は高すぎても低すぎても問題があるものと考えられる。これは自尊感情を自己申告による質問紙法に依らざるを得ないという、方法上の問題から生じたもので、他者による評定などを用いない限り解決できないものであろう。

また、自尊感情は傷つき易い面を持っており、自分の価値が低下させられるような状況下で、いかに自分に対する評価を低下させずに済むかということも社会適応の上で重要なことである。したがって、危機場面において自尊感情を維持していくために、どのような方略を用いるかは自尊感情の特質を検討するためには欠かせないことと考えられる。そこで、次の報告において、自尊心維持のための方略に関して検討した結果を報告する予定である。

引用文献

- 相川充 1995 矯正施設での社会的スキル訓練について 刑政 106(8), 16-26
- Duval, S. & Wicklund, R. A. 1972 A theory of objective self-awareness. NY Academic Press
- 遠藤辰雄他 1992 セルフエスティームの心理学—自己価値の探求— ナカニシヤ出版
- 堀洋道他 1994 心理尺度ファイル 垣内出版
- 星野命 1970 感情の心理と教育 児童心理 24, 1264-1283, 1445-1477
- 法務省矯正局 1997 S S Tの指導手引
- 石井トク・野口恭子・斎藤君枝・伊藤泰彦・梶間幹男・伊藤雅子 1996 非行少年の被害 体験と自己意識との関連 犯罪心理学研究 34 特 16-17
- 伊藤忠弘 1994 自尊心概念及び自尊心尺度の再検討 東京大学教育学部紀要, 34, 207-215
- Jones, E. E. & Berglas, S. 1978 Control of attributions about the self through self-handicapping strategies. The appeal of alcohol and the role of underachievement. Personality and social Psychology Bulletin, 4, 200-206
- Jones, E. E. & Pittman, T. S. 1982 Toward a general theory of strategic self-presentation. In Suls, J. (Ed.) Psychological perspectives on the self. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Jones, E. E., Rhodewalt, F., Quattrone, G., & Pittman, T. 1986 Self-Handicapping Scale. Unpublished manuscript.
- 上瀬由美子・堀野緑 1995 自己意識欲求喚起と自己情報収集行動の心理的背景—青年期を通して— 教育心理学研究, 43(1), 23-31
- 茅場薫・山口悦照・坪内宏介・浜孝明・小坂清文・遊間義一・西田太郎 1991 非行少年の生活・価値観に関する研究(第1報告) 法務総合研究所研究部紀要, 34, 55-111
- 菊池章夫 1988 思いやりを科学する

- 川島書店（改訂版：1998 再び思いやりを科学する 川島書店）
- 上芝功博 1994 今日の少年鑑別所の少年たち—30年前と比べて— 犯罪と非行, 99, 23-39
- 前田ケイ 1997 矯正におけるSSTのありかた 刑政 108(7), 16-26
- 山本真理子・松井豊・山成由起子 1982 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30(1), 64-68
- 沼崎誠・小口孝司 1990 大学生のセルフハンディキャッピングの2次元 社会心理学研究, 5, 42-49
- Rosenberg, M. 1965 Society and the adolescent self-image. Princeton Univ. Pre.

資料 自尊心維持方略と自己概念不安定性尺度の質問項目一覧

A 自尊心維持方略に関する尺度

ア 哀願的自己呈示

- 1 都合が悪くなると、本当は病気ではないのに、病気のふりをしたことがある。
- 2 自信がないときは、素直に自分の弱いところを見せて助けてもらう。
- 3 嫌なことがあったときは、友だちに慰めてもらいたい。
- 4 人には自分の弱みを見せたりしない。
- 5 ひどく落ち込んでいても、平気なふりをするほうだ。
- 6 泣いたふりをして、自分のして欲しいことを相手にきいてもらうことがある。
- 7 私は人から助けしてもらわなくても、たくさんのかんことをやりとげてきた。
- 8 自分がかわいそうな人間だと思う。
- 9 人から責められそうなきときは、自分がかわいそうな人間であると相手に思わせ許してもらう。

イ 威嚇的自己呈示

- 1 売られたけんかは買う。
- 2 自分を馬鹿にする相手は、痛い目に合わせる。
- 3 友だちの前では度胸があるところを見せたい。
- 4 人から「恐そうな人だ」とよく言われる。
- 5 ならまれたら、ならみ返す。
- 6 私は、いくじなしと思われたくない。
- 7 気に入らないと、知らない人とでもけんかをしてしまう。
- 8 生意気な相手には、力づくで言うことをきかせることもある。
- 9 相手の方が強いと分かっていたら、絶対にけんかはしない。

ウ セルフ・ハンディキャッピング

- 1 ここ一番の大切なときになると、体の調子が悪くなる。
- 2 試験前「本気でやる気ないから」「適当でいいや」などと友だちに言ったことがある。
- 3 簡単なことができないと恥ずかしいので、わざと難しい方を選ぶことがある。
- 4 大事な仕事がある前の夜には、よく眠り、健康には十分気を付ける。
- 5 大事な試験や仕事の前に、つい遊んでしまい、自分の力が出しきれなかったことがある。
- 6 面接や試験を受けるようなとき、いつも準備が足りないと思う。

- 7 本気でやろうとするといつも邪魔が入る。
- 8 本気でやって失敗すると格好が悪いので、あまり本気を出していないように見せている。
- 9 好きな人にふられそうになると、たいした相手じゃないと友だちに言ったりする。

エ 自己意識の低減

- 1 やけになって酒を飲んだり、大食いしたことがある。
- 2 仲間といっしょに騒いでいると、いやなことは忘れられる。
- 3 気晴らしをするために、買い物に出かけ、つい買いすぎてしまうことがある。
- 4 気分が落ち込んだときには、落ちこんでいる原因についてじっくり考える。
- 5 嫌なことがあってイライラすると、酒やタバコの量が増える。
- 6 悲しいことがあると、いつもより羽目を外して遊んでしまう。
- 7 面白くないことがあると、いつもより長電話をして気をまぎらわせる。
- 8 心配ごとがあっても、テレビゲームなどを始めてしまうと、ゲームの方に夢中になってしまう。
- 9 何か問題が起こったら、解決するまではそれにかかりきりになる。

B 自己概念不安定性尺度

- 1 自分のことが好きになったり嫌いになったりする。
- 2 自分の性格を変えたいと思うことがよくある。
- 3 「人が見ている自分」は「本当の自分」と違うと覚えることがある。
- 4 「今の自分」は「理想の自分」とずいぶんかけ離れている。

付表1 自尊感情尺度の各項目の回答分布（％）

質 問 内 容	そ の と お り	ま あ そ の と お り	す こ し ち が う	ち が う	無 回 答
【男子】 1,580名					
1 だいたいにおいて私は自分に満足している	10.3	30.6	39.6	18.7	0.8
② 自分は全くだめな人間だと思うことがある	14.7	32.8	31.3	20.5	0.7
3 私はいろいろな良い素質を持っている	14.7	42.3	35.3	6.8	0.9
4 物事を人並みにはうまくやれる	17.7	47.8	29.0	4.2	1.2
⑤ 自分には自慢できるところがあまりない	12.3	31.9	38.9	15.7	1.1
⑥ 何かにつけて自分は役に立たない人間だと思う	22.5	48.8	20.3	7.5	0.9
7 私は少なくとも人並みには価値のある人間である	7.5	32.9	41.3	17.3	1.1
8 もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	64.3	27.3	5.8	1.8	0.7
⑨ 自分が敗北者だと思うことがよくある	23.7	42.9	22.7	9.6	1.1
10 私は自分のことが気に入っている	19.7	34.2	34.9	10.6	0.7
【女子】 215名					
1 だいたいにおいて私は自分に満足している	7.9	18.1	45.1	28.8	—
② 自分は全くだめな人間だと思うことがある	13.6	27.1	30.8	28.5	0.5
3 私はいろいろな良い素質を持っている	7.9	30.2	39.5	21.4	0.9
4 物事を人並みにはうまくやれる	9.8	40.9	36.3	12.6	0.5
⑤ 自分には自慢できるところがあまりない	9.8	25.1	41.4	23.3	0.5
⑥ 何かにつけて自分は役に立たない人間だと思う	18.1	40.9	27.4	13.0	0.5
7 私は少なくとも人並みには価値のある人間である	10.7	33.0	38.6	17.2	0.5
8 もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	60.9	32.1	3.7	2.3	0.9
⑨ 自分が敗北者だと思うことがよくある	22.3	43.3	21.4	12.1	0.9
10 私は自分のことが気に入っている	12.6	23.7	35.3	27.9	0.5

(注) ○で囲んだ項目は逆転項目である。

付表2 自尊感情得点と諸属性

		男子少年				女子少年			
		平均値	SD	N	多重比較	平均値	SD	N	多重比較
安定度	①安定	23.86	5.00	809	>③	21.32	5.09	75	—
	②やや不安定	23.54	4.73	509	—	21.22	5.68	89	—
	③不安定	22.66	5.09	171	<①	21.89	6.47	45	—
同胞数	①1人っ子	23.97	4.82	131	>④	22.27	5.45	30	—
	②2人	23.95	4.96	612	>④	21.51	5.35	82	—
	③3人	23.45	4.87	549	—	21.04	6.18	56	—
	④4人以上	22.67	4.97	204	<①②	21.05	5.71	41	—
出生順	①1人っ子	23.97	4.82	131	>③	22.27	5.45	30	—
	②長子	23.62	5.05	416	—	22.24	5.66	66	—
	③中間子	22.95	4.55	335	<①④	21.81	5.88	37	—
	④末っ子	23.85	5.05	614	>④	20.13	5.45	76	—
入所	①初入	23.65	4.97	1180	—	21.56	5.63	181	—
	②再入	23.36	4.80	315	—	20.36	5.68	28	—
鑑別判定	①在宅保護	24.16	4.93	606	>②④⑤	22.25	5.32	79	>④⑤
	②教護院養護施設	21.00	4.73	21	<①②③	21.88	5.00	8	—
	③少年院(短期)	23.84	4.44	319	>②④⑤	22.80	5.16	45	>④⑤
	④少年院(長期)	22.98	5.00	486	<①③	19.85	5.90	72	<①③
	⑤その他	22.52	5.95	64	<①③	17.00	6.52	5	<①③
保護歴	①なし・警察補導	23.80	5.05	939	>③	21.75	5.58	177	—
	②交通・保護観察	23.54	4.66	366	>③	18.57	6.00	21	—
	③収容保護歴	22.62	4.88	168	<①②	21.18	4.83	11	—
非行種別	①乗物盗	22.00	4.74	103	<②③④⑥⑦	—	—	0	—
	②他窃盗	23.68	5.13	312	>①⑧	21.50	5.86	24	—
	③粗暴犯	23.61	4.84	470	>①⑧	20.48	5.57	48	—
	④凶悪犯	24.17	4.89	106	>①⑧	19.14	2.48	7	—
	⑤性犯	22.81	5.37	53	<⑥	21.00	—	1	—
	⑥交通犯	24.32	4.02	258	>①⑤⑧	—	—	0	—
	⑦薬物犯	24.28	5.32	102	>①⑧	22.12	5.99	75	—
	⑧ぐ犯	21.88	4.83	59	<②③④⑥⑦	21.33	5.54	48	—
	⑨その他	23.42	6.12	75	—	18.80	4.21	5	—
共犯役割	①主導	23.78	4.96	233	—	20.96	5.00	25	—
	②共同	23.94	4.46	542	>⑤	20.80	5.99	55	—
	③雷同	23.92	4.76	198	>⑤	22.81	6.36	27	—
	④従属	23.06	5.06	107	—	22.47	4.56	17	—
	⑤非該当(単独)	23.01	5.48	410	<②③	21.29	5.43	80	—
共犯数	①単独犯	23.00	5.47	423	<②③	21.12	5.40	83	—
	②3人以上	23.78	4.72	499	>①	22.12	5.66	83	—
	③4人以上	23.73	4.67	497	>①	20.22	5.90	41	—

付表3 社会的スキル尺度の各項目の回答分布 (%)

質 問 内 容	その と お り	お り ま あ そ の と	ど ち ら と も い え な い	う す こ し ち が	ち が う	無 回 答
【男子】 1,580名						
1 人と話しているとき、話とぎれるようなことはあまりない	6.4	17.9	34.6	27.6	13.4	0.2
② 人にこうして欲しいと思うとき、それをうまく伝えることができない	18.2	30.6	23.2	17.0	10.9	0.1
3 私は人を助けていくことが上手だ	5.4	13.9	57.0	17.0	6.6	0.1
4 相手が怒っているときに、うまくなだめることができる	7.0	11.7	33.7	31.5	16.1	0.1
5 知らない人でも、すぐに話を始められる	9.3	16.7	23.2	32.7	18.0	—
6 周りの人たちとの間で行き違いがあってもうまく片づけられる	4.9	12.1	46.1	25.0	11.3	0.6
⑦ 怖いことや恐ろしいことがあると、どうしていいか分からなくなってしまう	15.3	20.8	26.5	22.0	15.1	0.3
8 気まずいことがあった相手とも、うまくやっっていける	4.4	10.3	21.3	35.5	28.4	0.2
⑨ 仕事をする時に、何をどうやったらいいか自分だけではなかなか決められない	15.2	25.4	21.1	21.7	16.3	0.4
⑩ 人が話している中には、気軽に入っていけない	11.8	20.9	31.8	21.9	13.6	—
11 相手から文句を言われてもそれをうまく切り抜けることができる	8.0	15.5	35.7	26.8	13.9	0.1
12 仕事もうまくいかないとき、どこがまずかったのかを、すぐに見つけることができる	5.1	17.5	32.1	30.8	14.2	0.2
13 自分の感情や気持ちを、そのまま表面に出せる	7.8	15.8	28.5	26.8	21.1	0.1
⑭ ひとつの事について、相手によっていろいろ違ったことを言われると、どうしていいか分からなくなってしまう	18.7	24.6	33.6	13.5	9.4	0.1
15 初めて会った人に、上手に自己紹介する(自分自身のことをうまく話す)ことができる	13.0	22.3	28.7	20.6	15.1	0.2
16 何か失敗したとき、すぐにその場で謝ることができる	3.2	11.1	18.7	36.3	30.4	0.3
17 周りの人の考えと自分の考えがちがっていても、うまく合わせていくことができる	3.4	12.5	33.4	32.6	17.3	0.8
18 自分だけで仕事の目標が立てられる	8.3	17.1	30.8	23.6	19.9	0.4
【女子】 215名						
1 人と話しているとき、話とぎれるようなことはあまりない	6.0	9.8	34.9	34.9	14.4	—
② 人にこうして欲しいと思うとき、それをうまく伝えることができない	19.1	27.0	25.6	17.2	10.7	0.5
3 私は人を助けていくことが上手だ	9.8	13.5	57.7	13.0	4.7	1.4
4 相手が怒っているときに、うまくなだめることができる	8.4	11.6	39.1	26.1	14.4	0.5
5 知らない人でも、すぐに話を始められる	9.8	9.8	18.1	37.2	25.1	—
6 周りの人たちとの間で行き違いがあってもうまく片づけられる	9.3	12.1	46.5	20.5	10.2	1.4
⑦ 怖いことや恐ろしいことがあると、どうしていいか分からなくなってしまう	24.7	27.4	20.9	13.0	13.0	0.9
8 気まずいことがあった相手とも、うまくやっっていける	5.6	7.4	28.4	33.5	24.7	0.5
⑨ 仕事をする時に、何をどうやったらいいか自分だけではなかなか決められない	11.6	25.6	30.2	16.3	15.8	0.5
⑩ 人が話している中には、気軽に入っていけない	11.6	20.5	29.8	22.8	15.3	—
11 相手から文句を言われてもそれをうまく切り抜けることができる	6.5	20.0	38.1	18.6	16.3	0.5
12 仕事もうまくいかないとき、どこがまずかったのかを、すぐに見つけることができる	7.9	19.1	37.2	27.0	8.4	0.5
13 自分の感情や気持ちを、そのまま表面に出せる	8.8	11.6	25.1	28.8	24.7	0.9
⑭ ひとつの事について、相手によっていろいろ違ったことを言われると、どうしていいか分からなくなってしまう	21.9	26.5	28.4	9.8	13.0	0.5
15 初めて会った人に、上手に自己紹介する(自分自身のことをうまく話す)ことができる	17.7	19.5	28.4	18.1	15.4	0.9
16 何か失敗したとき、すぐにその場で謝ることができる	6.5	17.7	20.0	31.6	23.3	0.9
17 周りの人の考えと自分の考えがちがっていても、うまく合わせていくことができる	6.5	9.3	36.7	32.1	14.4	0.9
18 自分だけで仕事の目標が立てられる	10.2	14.4	34.0	22.3	18.6	0.5

(注) ○で囲んだ項目は逆転項目である。